

支 部 長 挨拶

このたび日本気象学会北海道支部の今年度第1回理事会におきまして、欠員中の理事にご推薦いただき、かつご指名により支部長をお引き受けすることになりました。もとより微力であり重責を感じるところではありますが、役員各位並びに会員の皆様のご支援を得て、支部の発展のために全力を傾注すべく考えております。よろしくお願いいたします。



私がかつて昭和56・57年度に当支部でお世話になった時の、北海道支部の活発な活動ぶりは、よく承知しておりますが、この数年間に更に大きな発展をみていることに、深く感銘しているところがございます。広い学術分野・応用分野の研究活動、会員相互の交流はもとより、今年第7回を迎える夏期大学[新しい気象]講座の創設、毎年の充実した地方講演会の開催、とくに昭和62年の支部創立30周年の記念行事とこれを機会に「細氷」と衣替えした支部機関誌の充実ぶりは、画期的な飛躍であるといえましょう。

当支部の会員数は約250名で、全会員数(国内・個人会員)の7%弱の小世帯ですが、支部活動は第1級のレベルにあると確信いたすところであります。

このような近年の隆盛は、故孫野・小林両先生をはじめ歴代の理事・幹事並びに会員の皆様の熱意の賜と心から敬意を表する次第でございます。

近年、社会の高度化に伴い、各分野に一層の安全性・経済性・利便性等が求められ、これに関連して気象学の進歩、気象業務の充実に対する一般の関心は益々大きくなる情勢にあり、特に北海道地域の皆様からの期待は甚だ大きいものがあると存じます。これは数々の業績により、地域に貢献して参りました当支部の活動に対する期待でもあると存じます。

会員の皆様の一層のご健勝、ご発展を祈念して、ご挨拶といたします。

日本気象学会北海道支部長 **黒 沢 真喜人**

(札幌管区気象台長)